

2019年度ICT利用による教育改善研究発表会  
受賞者決定

## 1. 本発表会の趣旨

本発表会は、全国の国公私立大学・短期大学教職員を対象に、教育改善のためのICT活用によるFD（ファカルティ・ディベロップメント）活動の振興普及を促進・奨励し、その成果の公表を通じて大学教育の質的向上をはかることを目的とする。優れた発表に対しては、文部科学大臣賞（最優秀賞）、協会賞（優秀賞）、奨励賞を授与し、その教育業績を顕彰するとともに、本協会ホームページに掲載、公開する。

本発表会は今年度で27回目となり、これまでに文部科学大臣賞5件、私立大学教育協会賞32件、奨励賞49件、佳作4点を顕彰してきた。なお、本発表会では毎年度、文部科学省の後援と文部科学大臣賞の交付が認められている。

## 2. 選考方法および結果

2019年度のICT利用による教育改善研究発表会は、令和元年8月9日に東京理科大学森戸記念館で開催し、人文、社会、理工、情報、医療系等の分野から45件の発表があった。選考は、「ICT利用による教育改善の目的・目標が明瞭になっていること」「ICTを利用した教育改善の内容と方法が明瞭になっていること」「教育改善の効果が示されていること」を基準に行い、授賞選考委員会により7件の研究を選考した。その後、9月21日に行った2次選考の結果、「私立大学教育協会賞」1件と「奨励賞」1件の授賞が決定した。

表彰式は、11月27日に本協会の第26回臨時総会の冒頭に行い、ICT利用教育改善発表会運営委員会の角田和巳担当理事による発表会の概要説明と本年度結果報告の後、本協会の向殿政男会長による私立大学情報教育協会賞、奨励賞の表彰楯の授与を行った。受賞者は次の通り。



左から本協会向殿会長、受賞者の北海道医療大学 西牧氏、神戸学院大学 中西氏、本協会 角田理事



本協会 向殿会長



本協会 角田担当理事

## 2019年度ICT利用による教育改善研究発表会 受賞者

### 私立大学情報教育協会賞

#### ■ 「クラウド活用による同僚間アンケート調査を取り入れた 問題発見課題解決型協働学修」



北海道医療大学  
心理科学部  
西牧 可織氏



北海道医療大学  
薬学部  
二瓶 裕之氏

#### <授賞理由>

本研究は、薬学、歯学、看護福祉学、心理科学、リハビリテーション科学の5学部における初年次科目において、問題を多面的・多角的に捉える力の醸成を目指した教育改善である。小規模グループの解決策について、クラス全体または学部を超えて学生間の意見をクラウド型の電子フォームアンケート機能で調査し、電子ボードの共有機能を用いて課題の捉え方や発想の気づきを得る中で、様々なデータを組み合わせて課題解決力の向上を促進する研究であり、他分野への応用・展開が期待される点についても評価できる。

### 奨励賞

#### ■ 「IT教室の特性と音声認識ソフトを活かした英語リスニング・ スピーキング活動の可視化」



神戸学院大学  
グローバルコミュニ  
ケーション学部  
中西 のりこ氏



神戸学院大学  
グローバルコミュニ  
ケーション学部  
タム ショウイン氏



神戸学院大学  
グローバルコミュニ  
ケーション学部  
海老原 由貴氏

#### <授賞理由>

本研究は、iPad、PCやスマートフォンのe-learningシステムを活用して「聞く力・話す力」の振り返りを目指す教育改善の試みである。学生の英語発表を自動音声認識ソフトで読み取り、音声から英語に変換した英語文と、英語の発表文を比較させることにより、自律的な発音学修を促すことを可能にした結果、「聞く力・話す力」が入学後の3ヶ月で飛躍的に伸び、2年次には9割がヨーロッパ基準の基礎段階言語使用者レベル（CEFR A2以上）に到達したことが外部テスト結果でも確認されたが、会話の相手にとって聞き取りやすいかという面では大きな課題が残っており、工夫が必要であることが明らかになった。